

責任追及への回帰？！

懲罰的日勤教育を許さず、働きやすい職場を取り戻そう！ VOL2

○安全風土を破壊する問題点の数々！

今回の事象は一時的な睡眠が直接的な原因です。原因究明をするのであれば「なぜ寝てしまったのか」について掘り下げなくてはなりません。当該運転士は重度のSASと診断され、治療を行っていました。会社のSAS検査は、まず簡易検査を行い、疑いがあった場合に精密検査を行います。SASと診断されれば乗務制限となり、治療により症状が改善した段階で乗務復帰させることが確認されています。あわせて、当該社員に対しては不利益な扱いを行わないことになっています。しかし、今回の事象に対する原因究明と、それに基づく対策が一切行われていません。さらにはSASと診断された場合の取り扱いが反故にされていることが大きな問題です！

○人間労働を否定する懲罰的日勤教育！行き着く先は JR 西日本福知山線脱線事故！

2005年4月25日に発生したJR西日本福知山線脱線事故は、速度超過が直接的な原因ですが、その背景には懲罰的日勤教育が関係していたことが国土交通省航空・鉄道事故調査委員会最終報告でも明らかになっています。今回の区への対応は、まさしくJR西日本のようなモノが言えない職場風土につながるものです。このままでは乗務員はミスを起こした後の処分に怯えてしまい、嘘や誤魔化しにより正しい報告がされず、その結果重大な鉄道事故を引き起こしてしまいます。発生事象に対しては原因究明を早急に行い、原因に基づいた対策と教育を行うことが、これまでの安全文化を創り上げ、安全を経営のトップフライオリティに位置づけているJR東日本が行うべきことです。

懲罰的日勤教育では安全が守れないことは明白です。安全で働きがいのある職場風土は私たち一人ひとりの団結で守らなくてはなりません。

30年後も安心して働ける職場とは何か？みんなで考えましょう！